



2016年4月19日
国際森林製紙団体協議会（ICFPA）

林産品産業は気候変動の解決に貢献します

国際森林製紙団体協議会（The International Council of Forest and Paper Associations : ICFPA）並びに会員団体は、4月22日に行われる歴史的な気候変動対策の国際協定（パリ協定）の署名式に対し歓迎の意を表明します。パリ協定では世界の平均気温の上昇を2℃未満に抑えることが目標に定められ、各国がその達成に取り組んでいくことを求めています。世界の林産品産業は、この目標実現に非常に大きな役割を果たします。

ICFPA 理事長のエリザベス・デ・カルバヘス（ブラジル森林産業連合会理事長）は次のようにコメントしています。「世界の林産品産業は、CO₂ 排出削減、炭素吸収、温室効果ガス削減にこれまで大きな成果を上げ、気候変動緩和に貢献してきました。パリ協定は、持続可能な方法で管理された森林から供給されるバイオマスをカーボン・ニュートラル（炭素中立）を認める政策の実現、そして気候変動対策において森林や林産品が果たす貢献についての一層の理解を進めるために極めて重要です」

再生可能産業という特長を持つ林産品産業は、グリーン経済実現や社会全体のために気候変動緩和に継続して取り組んでいます。ICFPA が2015年に発表したサステナビリティ・プロGRESS・レポートによると、ICFPA 会員団体の温室効果ガス排出原単位は、2010年-2011年以降5%、2004年-2005年以降では17%削減されています。

ICFPA が著名な研究者である Paulo Canaveira 氏に委託し作成した報告書「各国が自主的に決定する約束草案（Intended Nationally Determined Contributions : INDCs）への森林の貢献に関する分析」では、森林産業が気候変動緩和に重要な役割を果たすことを明らかにしています。ICFPA 各会員団体の国が設定した温室効果ガス削減目標における森林の貢献度、そして2020年以降の国際的な気候変動緩和への取り組みから、報告書では多くの国が温室効果ガス削減目標達成に向けた政策の中で森林及び土地利用部門を不可欠な要素として位置付けていると結論しています。また、主要な気候変動緩和への取り組みとして、森林減少からの温室効果ガス排出削減に加え、持続可能な森林経営、新規植林、再植林を挙げています。一部の発展途上国では、これらの取り組みが国内の温室効果ガス排出削減の中心となっています。

その他世界の林産品産業では、温室効果ガス低排出技術並びに炭素隔離技術への投資、木材繊維を原料に従来の化石燃料由来製品を代替する革新的製品の開発に取り組み、国内並びに地域の気候変動対策を支援しています。